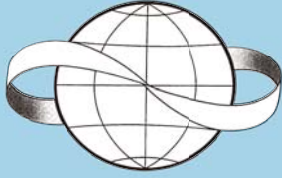


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第75号

商標登録第 4882482 号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 18
TEL : 042 - 395 - 9788
FAX : 042 - 395 - 9787

海外市況激変により どうなる？古紙リサイクル

最悪の場合には、余剰した古紙を赤字覚悟で輸出し続けるか、廃プラのように行政に焼却をお願いするか、業界の会合でそんな議論が飛び出すほど、実は古紙の市況は危機的状況にある。

二〇一七年に中国が環境問題を理由に海外からの再生可能な廃棄物の輸入規制を発動して以来、米中の貿易摩擦も相まって古紙の海外市況は乱高下を繰り返してきた。今年に入って古紙の輸出価格は国内価格を大きく下回り、輸出量も五月までで前年同期比八割を切る水準になっている。日本は、中国を始めとする海外から製品を輸入する際に、パッケージや説明書などの形で、年間一六〇万トンの紙類を同時に輸入している。これらを古紙として回収した場合、国内製紙メーカーでは使いきれないため、製造元の国に戻してやらなければ、国内の古紙の需給バランスが保てなくなる。実際、海外に行き場を無くした古紙が国内メーカーに流れ込み、納入枠をしっかりと守ってきた我々のような古紙問屋にまで納入量のカットや荷止めがかかっており、各地の古紙問屋も主に段ボールを中心に大量の在庫を抱えている状態になっている。

国内製紙メーカーも、五月くらい迄は段ボール原紙の出荷も好調に推移していたようだが、六月からは天候の影響もあって減産を余儀なくされている。昨年まで好調だった原紙の海外輸出も今年に入って減っており、海外だけでなく国内の古紙の動向も不透明である。

また、国際的なビッグイベントがあると思われ「東京オリンピック」までは景気は持つだろう。『そんな言葉も、資源業界ではあまり聞かれない。実際は五輪のお陰で今はまだまし、来年の東京五輪後は景気も減速、そして二〇二〇年末の中国の輸入停止で最悪の状態になるのではないかとネガティブな予測が尽きない。

それでも、冒頭に申し上げたような焼却なんて言う話は論外で、市民の皆様がしっかりと分別して頂いた古紙は、一〇〇%リサイクルをしなければならぬと当組合としては断固訴えていきたい。そして、これだけ手をかけて分別した日本の古紙が、緊急事態とは言え海外に安く買い叩かれているのも、納得がいかない。

このような事情もあり、国際情勢を探るべく六月に韓国の古紙事情を視察してきた。(詳細は、本誌

二〜五ページに掲載)その際に感じたことは、今後の古紙の需要国が中国からインドを始めアジア各国に移っていくということ。実際、各国の製紙会社が拠点を移しており、中国以外への販路の拡大の可能性が見えてきている。発生減も考えると販路はまだありそうにも感じる。

但し、その際に古紙の備蓄力、コンテナ物流の輸送力が重要になってくるが、日本の港は他の国々に比べると取扱量も少なく、物流のハブの役割も大規模なコンテナふ頭を持つ港が整備されている中国、シンガポール、韓国を始め東南アジア各国に奪われている。古紙が売れる先があっても、航路がない、帰り荷がなくて運賃が高いなど、解決しなくてはならない課題があることが分かった。

そして、輸送力で劣る日本の古紙が武器に出来るのは、やはり分別と品質しかないと思う。行政、市民、回収業者、問屋が連携して、日本の古紙を本当の意味でブランド化していく必要がある。

また、二〇一八年に六四・三%になった古紙利用率(二〇二〇年までに六五%にする目標)をさらに高め、古紙の国内消費を強化することも必要だ。(TKO)

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

韓国RPM (古紙)

市場視察報告

去る六月一日(金)〜一七日(月)、(株)資源新報社主催の韓国古紙 (RPM: Recycled Paper Material) 市場視察に参加した。成田空港で各地から参加している古紙問屋の方々と合流後、古紙輸出商社である(株)エコマット産業営業部リーダーである尹(ユン)さんに案内して頂いた。

韓国仁川(インチョン) 国際空港へは成田空港から二時間ちよつとで到着、日本から最も近い海外、お隣の国というのを実感した。空港からは、(株)エコマット産業の現地法人であるバランスインダストリー社のマイクロバスで全行程を移動した。

昼食をとった後、まずは仁川



仁川港の閘門と入港する大型フェリー

港へ。仁川特別市は首都京城(ソウル)の海と空の玄関口として栄える韓国第三の都市である。仁川港は世界でも五ヶ所ほどしかない閘門式の港で、コンテナターミナルのある内湾の水深は潮の干満の影響を受けないようになっている。一度に十数隻の船がバースに停泊できるようになっている。閘門を経由しての入出港には三〇分ほど時間がかかる。このことだが、珍しい港湾設備をタワーの上から見る事が出来た。

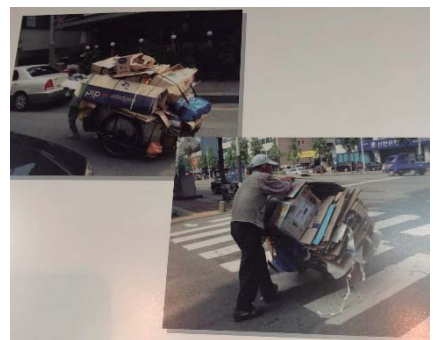
続いて、仁川市内の古紙ヤードを二か所見学した。二カ所とも主に段ボールを取り扱っていた。電気式のバックホウで段ボールを山から掴んでホッパーに放り込む方式で、最初は珍しく感じたが、韓国ではこの方法がスタン



電気式のバックホウ



ダードのようだった。段ボールの品質は、雑がみ類やビニールなどの不純物までまぎっており、お世辞にも品質がいいとは言えない代物だった。きれいに分別すれば高く売れるそうだが、それも一〜二円程度の格差なので、手間を考えるとそのまま売ってしまうとことだった。行き先は品質についてそれほどうるさくない韓国の国内メーカーだということ。仁川はリサイクルの歴史が長いので、メーカーとの付き合いも長く、きちんと買ってくれるそう。なお、以前はきれいなOCCも作っていたそうだが、輸出価格が暴落し、出荷できないために作っていないとのこと。なお、回収は高齢者によるリヤカー回収が多いそう。資源ごみ回収の日があるのだが、それをリヤカーで拾ってくるらしい。その他、パッカー車は高価なため、つかみ取りアームのついたトラックで拠点に集められた古紙の回収を行っている。



つかみ取りクレーンのついたトラックと、リヤカー回収の高齢者

荷下ろしの際もつかみ取りです。また、MI-Xという品目は韓国にはなく、MI-Xに新聞古紙が二〇%以上混ざっていればONP(古新聞)になるそう。また、台紙は国内向けに作っている。

次に伺ったのは、バランスネットワークの仁川事業所。ここでは、先ほど見学した古紙問屋を始め、

韓国国内の間屋から買い入れた古紙を保管し、積み替えて国内外に出荷している。ペーラー設備はないため、荷崩れした古紙は近くの間紙問屋に例のトラックで回収してもらうとのこと。

見学後、㈱エコマツト産業及びバランスインダストリー社の厳（オム）社長自ら一階にある資料展示室を案内してくれた。その後、二階に移動し、同社についてプロモーションビデオを見た後、厳社長から会社の紹介についてお話があった。同社は二〇〇五年二月に設立、古紙の輸出商社として二年後には韓国で一位の輸出货量を達成、その後も釜山（プサン）、仁川、光陽（クアンヤン）と事業所を拡げつつ、二〇一〇年には日本法人である株式会社エコマツト産業を設立、日本にも福岡、大阪と相次いで法人を設立した。二〇一五年には独自に開発した検品システムで韓国の特許を取得、その後日本、中国でも同様の特許を取得している。そして、同社は古紙の輸出活性化により、価格の上昇効果により、年間約二〇〇万トの回収量の増加に寄与し、韓国に年間一、四〇〇億円の富をもたらした。年間二、二七〇万トのCO2削減を達成したとしている。また、輸出がこのような現状で、



バランスネットワークの厳社長の講演の様子

古紙価格も下がってダブついているが、景気の減退やペーパース化によって発生も悪くなっている。ただ、印刷する、パッケージを作るのに絶対に紙は必要であり、その原料として古紙を使わなければパルプを使うしかないが、パルプを使うには木を切らなければならず、環境に負荷をかける上に、値段も高い。だから、必ず古紙パルプが必要になる。そして、製紙会社に安定的に古紙パルプを売るためには、一年中いつでも古紙を買うこと、そして、保管をする、在庫能力を高めることが必要であるという。

次に、㈱資源新報社の太田原専務より、古紙輸出市場の動向と、古紙持ち去り問題についての講演があった。今年の一〜四月の段ボール古紙の輸出は前年比一

八%も減少しており、月平均十一万トでは需給バランスを維持できないため、安値でも輸出を継続することが必要と結んだ。

日付は変わって一五日（土）。朝六時という早めの出発で、仁川から南におよそ三〇〇キロ離れた光陽市へと向かった。光陽市では、バランスネットワークの光陽事業所に向かった。ソウル本社から高速鉄道に乗って厳社長もこちらにいらして、事業所の案内をして頂いた。こちらは仁川事業所と違って九割が日本から輸入された古紙だそう。五、〇〇〇坪の敷地にコンテナ一〇〇〇本分の古紙が積み替え保管出来るようになっていて、日本から輸入したMIXを開梱してシルバーの方々によってこちらで選別して



日本からの輸入段ボール。品質は、正直あまり良くない。



シュレッダーや裁断くず、剥離紙など様々な品目を扱っている。

いると業界紙で拝見していたのだが、現在はその作業を行っていないとのことだった。月に一万ト取り扱っているそうだが、やはりペーラーはなく、積み替え保管施設である。基本的には輸入したものを輸出するということで、中国にも行っているが、ベトナム、インドネシア、インドなどに販路を拡げているそう。

現在、バランスネットワーク全体で八万トの保管能力があるそうだが、これを最大一五万トに高めるのが目標だそう。古紙問屋として、在庫能力があるというのは販売力につながるのには理解しているが、移送、積み替え、保管、再移送と、ここまでコストをかけて採算が合うのだろうかと昨日から疑問を感じてしまっていた

のでストレートに聞いてみた。こちらでは、ベール品のままで品質によるより分けをし、品質の良いものを組み合わせる輸出したり、特殊な紙はコンテナ二〜三本分にまとまるまで保管して輸出すること、高く売れるという返答だったが、正直、まだ頭の中の『?』が取れなかった。

この後、光陽港港湾公社へ伺った。この日は土曜日ということ、施設は休館日だったので、最上階の見学施設を開放して頂き、P Vと眼下に広がる光陽港コンテナふ頭を見せて頂いた。韓国一位の輸出入物量を誇る複合物流のハブ港で、なんとバランスネットワークが最も輸出入量の多い会社なのだそう。



光陽港のコンテナふ頭

この後、厳社長と光陽湾圏経済自由区域庁の金庁長様もご同席の元でお昼の会食となり、この地

方が元祖とされるブルコギを頂きながら、様々な意見交換をさせて頂いた。

午後からは、光陽市内には古紙ヤードが一〇カ所ほどあるが、うち二カ所を見学した。一カ所目は規模の小さな古紙ヤードで、古紙は段ボールが多く、その他金属類まで何でも扱う建場的なところだった。二カ所目は業者者だったが、バラの段ボールが山のように積み重ねられていた。事情を聴くと、これからの梅雨入りを前に、数週間かけてかき集めたとのこと。その後、順天湾国家庭園を観光して一日を終えた。

三日目は、釜山に移動し、国際市場を観光し、この四日間で唯一の自由時間となった。

明けて最終日、早朝より出発し、釜山市内の古紙ヤード二カ所を見学した。

最初のヤードは、新聞の取扱量が多く、他のヤードにおける新聞の扱量が月三〜四〇〇ト程度のところ、こちらでは月一、二〇〇トを扱っているとのこと。こちらは国内の新聞用紙向けで二〇%混入ルールのONPだ。当日はいなかったが、通常二〜三名で選別を行っているとのこと。事業系の破碎した古紙が多く積まれているが、こちらはシュレッダー

というほど細かくないので、上白みたいな品目で主に輸出に向けてられているようだ。

次にお邪魔したヤードは段ボールをメインにしている。手前のベラーと置き場は国内向けの段ボールを梱包、保管しているところ、選別はほとんどしていない。丁度国内向けの段ボールの出荷作業を行っているところだった。右奥のもう一台のベラーでは、新聞や紙パック、輸出向けの段ボールを梱包、保管していた。三カ所目にお邪魔したヤードも、段ボールを主に取り扱っており、月間五、〇〇〇トのうち八割が段ボールとのこと。全体の二〜三割が輸出向けで、輸出が不調なため、通常より積んでいるとのことだったが、私たちがいる間だけでも



2カ所目のヤードにて。国内向け段ボールの山

二台のコンテナが出荷されていた。こちらの会社の李社長は、釜山廣域市古紙都賣業協同組合の理事長も務められているということ、会議室でお話をお伺いした。釜山市の人口はおよそ三五〇万人、市内には古紙ヤードが四〇箇所あり、全社同組合に所属しているようだ。市内で月五〜六万トの発生量なので競争が激しいとのことだった。組合は三〇年の歴史があり、李理事長は大阪や福岡に視察にいられたこともあるそうだ。また、韓国国内では古紙が不足しているとのこと。

次に釜山港湾公社へ移動し、やはりP Vを拝見した後、建物最上階から広大な釜山新港を見下ろした。釜山港は単純な取扱量なら世界第六位、積み替え保管なら



釜山新港の様子

界第二位、韓国中の船荷の七〇%、積み替えの九五%を占めるだけでなく、アジアにおける重要なハブになっているとのこと。現在、山を切り開いた反対側に同じ規模のコンテナふ頭を建設しているようだ。

次に、バランスネットワーク社の一万五千坪の倉庫建設予定地を案内して頂いた。ここは埋立地で現在地盤の改良工事をしていくそう、本なら七月の完成予定がまだ更地の状態だった。土地は釜山市から長期借地権で借りているそうだが、市も釜山港の荷物の取り扱いを増やしたため、安い賃料で借りられたそう。こちらでは、日本だけでなく、欧米からも古紙を輸入して備蓄できるようにするそう。古紙は長年保管しておけば劣化もするし、この先積み置きをしたからと言って売れる保証はどこにもないのだが、答えはその立地にあるのかもしれない。

世界最大級ハブである釜山港があり、更にそこから陸路で二〇km程度、釜山港経由でも直接でも輸送可能な光陽港があり、両港から程近い地の利に大規模な備蓄倉庫を抱えることで、効果的な積み替え保管ビジネスを展開出来ているのだと一連の視察の

流れで実感した。これまでの中国がメインの古紙輸出においては、日本からも近く、帰りのコンテナも多いので直接輸出する方にメリットがあつたが、今後古紙の主要な輸出先となりうるインド、インドネシア、タイなどへ輸出する場合には、物流の便が良い韓国経由での販売ルートが拡大しそうな可能性を感じた。それだけに、こここのところの日韓の関係悪化は我々の業界にも少なからず影響がありそうに感じている。国際物流のパートナーという見地からも、両国間の早期の関係改善が望まれる。

今後の日本の古紙の市況は、不透明で厳しい状況であることは間違いないが、世界的な大きな流れを感じることが出来た有意義な視察となつた。(TKO)



日資連・関資連青年部通常総会

六月八日(土)、日暮里のホテルラングウッドにて、東資協青年部運営で日資連・関資連青年部通常総会が行われた。冒頭の大河内日資連青年部長から、昨年の自身の体調不良による活動自粛の陳謝があり、今期精力的に活動していきたいとの意気込みが語られた。関資連青年部総会終了後、休憩をはさみ日資連青年部総会が行われた。両総会共に、すべての議案審議が滞りなく承認され、総会は無事閉会した。

総会終了後、会場を移し懇親会が行われた。竹井関資連青年部長から、年長者の方々とお酒を飲み交わしながら交流を深め、知識や経験を吸収して下さいと挨拶があつた。来賓挨拶では、日資連の飯田会長より、資源業界の厳しい現状が語られ、青年部に叱咤激励



青年部総会の集合写真

をされた。関資連の福田会長からは、仲間意識を持ち、勇気をもって新たな道を切り開き、情熱を持つ気持ちが大切だと語られた。

各県青年部と積極的な交流を図り、今後も資源業界の未来について考えていきたいと思う。(K)

官公需適格組合受注検査を実施

六〇八月にかけ、小平市リサイクルセンター及び西東京市の委託業務を受注している三社(奥山商事(株)、侑土井商店、(株)藤本チェン)の共同受注検査を実施した。センターの運営状況、回収にあたるすべての人員・車両の点検を行うという結果であった。今後も検査を重ね、市民行政に信頼される組合であり続けられるよう努力する。

トイレットペーパー
「フューメラン」
 (65m巻き・100個入り)
 1ケース3,000円(消費税別・配達料込み)です。
 ※なお、配達には以下の地域に限定させていただきます。
 小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・東大和市
 ご注文は当組合までお願いします。
 TEL: 042-395-9788
 FAX: 042-395-9787

びんのリサイクルについて

廃プラスチックが何かと問題になっている今日この頃。今一度見直されているのがリターナブルの代名詞でもあるびん（生きびん）です。びん容器には、缶やペットボトルより口当たりがよく美味しく感じたり、保存性が良かったり、様々な形や色にすることが出来たりするメリットもあります。そこで、今号ではびんやカレットのリサイクルについて取り上げてみたいと思います。びんにはリターナブルびんとワンウェイびんがあります。リターナブルびんとは、ビールびんや一升びん、牛乳びんのように洗って何度も使うことが出来るびんのことです。ワンウェイびんはリターナブルびんのようにそのまま再利用の出来ないびんのことを言います。

○環境にやさしいリターナブルびん（生きびん）

びん容器は、中身のおいしさや味が移らないため、洗って何度でもリユースできる唯一の容器です。リターナブルびんを繰り返し使うことで、天然資源やエネルギーの節約にもなり、CO2の削減にもなります。500mlのびんを20回繰り返し使うことで、1回しか使わない場合に比べてCO2の排出量をおよそ6分の1に減らすことが出来るという試算もあります。

昔は、ジュースやしょうゆなどの調味料の容器として広く使われていましたが、びん容器は重いので製品の輸送コスト削減などの観点からプラボトルやペットボトルに代わっていききました。プラスチックの海洋汚染が問題になっている今、リターナブルびんを見直すいい機会かもしれません。



○便利なワンウェイびん

ワンウェイびんは環境に悪いというわけではありません。ワンウェイびんも、カレットという製びん原料になり、再びびん容器にリサイクルされています。古くなったり傷が付いたり割れたりしたリターナブルびんもカレットとなり、リサイクルされています。びんは、何度もびんに生まれ変わることが出来るリサイクルの優等生でもあります。

リターナブルびんと違い、ワンウェイびんがリユース出来ない理由はそのリユースをするルート（洗びん工場や飲料メーカーへ戻す流れ）がないためです。いろいろな容器を統一規格にすればリターナブルも可能になるかもしれません。

○びんリサイクルの流れ

まず、リターナブルびんは、買ったお店に戻すのが基本です。酒屋さんなどで購入した場合はお店に確認してみましょう。びんの牛乳などは、お店に返すか、自動販売機横に置いてあるカゴに戻しましょう。但し、最近のコンビニやスーパーではお店に戻すことも出来ないため、その場合は自治体の資源ごみ収集に出しましょう。以前は、集団資源回収でも生きびんを回収していたのですが、収集コストが見合わないため、現在では取り扱っていない回収業者がほとんどです。取り扱っている業者でも逆有償にな



びん商による引き取り

る場合があります。びんは、自治体の資源ごみ収集に出されることをお勧めします。

自治体のごみ収集で集められたびんは、資源物のリサイクルセンターで選別されます。まず、一升びんやビールびんなどのリターナブルびんを抜き取り、リターナブルびんは、P箱と言われる専用容器に入れられて保管、びん商に引き取られ、洗びん工場で洗浄します。この際、割れや傷のチェックなどを受けて弾かれたものは、カレットになります。最終的に酒蔵、飲料メーカーなどのびん詰め工場の中身を入れて再び店頭並びます。

生きびんを抜いた後のびんは選別ラインに流され、白、茶、その他で色分けされ、カレットになります。びん以外の不純物や、不純物のついたものはカレット残渣になります。色分けされたカレットは、カレット工場に運ばれ、陶磁器や金属類などの不純物の除去、ラベルの除去などの工程を経て製びん原料となり、びん工場で新たなびんに生まれ変わります。



選別ラインでの作業の様子



○びんリサイクルにおける課題△

①生きびんをリユースするのに必要なP箱が戻ってこない、足りない

生きびんをストックして流通させるには、P箱と呼ばれるプラスチックのケースが必要です。この箱がないとせっかく生きびんを選別しても流通させることが出来ません。P箱が廃棄されてしまったり、別の形で利用されてしまうことでケースが足りなくなっています。P箱は勝手に廃棄したり他の用途に流用せず、元の業者に戻しましょう。

②良質なカレット原料の不足

近年、びんの回収をカゴではなく袋回収で行ったり、パッカーで収集を行うケースが増えてきています。袋で回収したものを破袋機に掛けたり、パッカー車で巻き込むことでびんが粉々になってしまい、生きびんが取れないのはもちろん、カレットとしても色別に選別するのが難しくなっているようで、カレット原料になるものが減り、残渣が増えているそうです。分別できずに残ったカレット残渣はガラス瓶の原料にはならず、路盤材になるか、埋め立て処分せざるを得ません。

と、様々な課題を抱えているびんのリサイクルですが、組合では、効率的かつ高品質な収集方法、選別方法の研究を今後も進めてまいります。市民の皆様は分別へのご協力を宜しくお願いします。

○びんを出す場合の注意

びんを出す場合には、袋回収、カゴ回収など、自治体毎に回収方法が異なるため、各自治体のルールに従って出して下さい。

- ・中身は空にして、すすいで、ふた、キャップなどは外して出して下さい。
- ・シールラベルは無理に剥がさなくて結構ですが、ビニールなど簡単に剥がせるものは取りましょう。
- ・コップなどのガラス容器、陶磁器、食器類などはびんではありません。びんには入れないで下さい。
- ・ピンを取り扱う場合には、割れて怪我などしないよう気を付けましょう！

まとめ

- ①リターナブルびんをお店に戻せる場合は、お店に返しましょう。戻せない場合は、分別して自治体の資源ごみ収集に出しましょう。
- ②びんを出す際は、自治体のルールに従って出して下さい。
- ③中身は空にしてすすいで、ふたやキャップは外して出しましょう。
- ④お皿やコップなどの食器類はびんではありませんので、混ぜないで下さい。

以上、よろしくお願いします！

【広島回収事情視察報告】

令和元年七月二四日、吉浦理事長、小畑副理事長、日資連大河内青年部長と共に広島市の資源回収事情を視察した。

広島市では、資源ごみ（古紙・古着・びん・缶）と有害ごみ（乾電池・蛍光灯）が月二回、同日回収となっていて、直営及び委託車輛が毎日一〇〜二〇台で収集を行っている。車両はパッカー車ではなく、深あおりのダンプで、ここにコンパネを立てて全品一括収集をしている。



街で見かけた収集車両

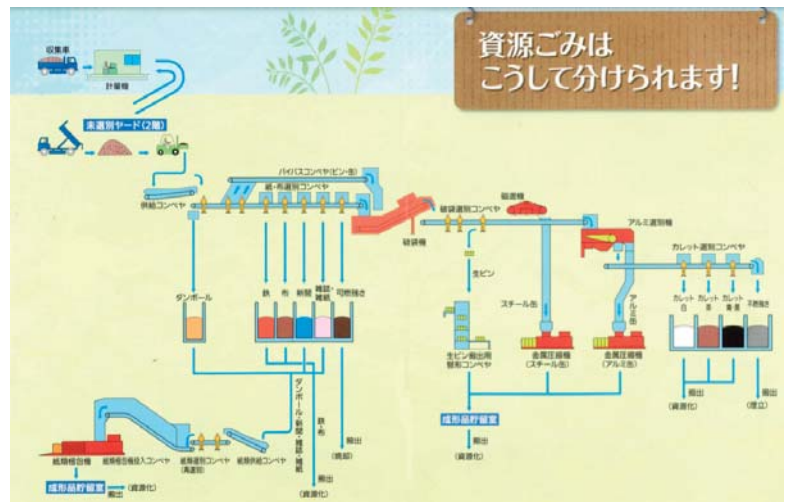
収集車は、市内八区あるうち、二区が北部資源選別センターに、六区が西部リサイクルプラザに搬入している。今回は西部リサイクルプラザを見学させて頂いた。こちらは、平成九年に竣工した資源

物専用の施設で、日量九〇tの処理能力がある。通常の搬入量は七〜八〇tくらいとのこと。

搬入された資源物は、未選別ヤードにてダンプアップされ、集められる。この段階では、古紙も古着もびんも缶も一緒になっている。供給コンベアにて選別ラインに流れ始めると、まず大きな段ボールを手作業で取り除いたあと、びん・缶はバイパスコンベアの方に

手作業で振り分けをする。そもそも基本的にはすべて手作業で行っているようだ。紙・布選別コンベアに残った資源物は、鉄・布・新聞・雑誌雑がみ・可燃残渣の順番に選別される。残ったびん・缶は、バイパスコンベアに振り分けられたものと合流して次の工程に流れていく。古紙類はシューターで下の階のストックヤードに落とされ、その後、ひも切りをし、紙の選別加工ラインに投入され、製紙原料となっていく。

びん・缶は、破袋機から手作業による除袋、それからまず先に生きびんが振り分けられ、磁選機でスチール缶、アルミ缶選別機でアルミ缶が選別、圧縮加工され、最後の選別ラインでカレットを色別に選別していく。この一連の流れが全長一〇〇メートルに達するそ



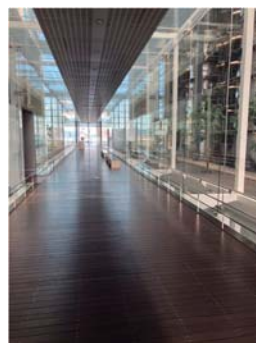
うで、なかなか圧巻である。選別ラインは六〇cm幅のものが三本あるのだが、一番手前のラインが故障で止まっており、見学者としては少し残念だった。構内の作業は民間に運営委託されており、約四〇名の方が働いているようだ。一括で収集して後から選別する方式をとっているの、後ほど分けてやすいように品目別にしっかりと分別して出してもらおうよう市民に指導しているとのことだった。

続いて、広島市の可燃ごみ処理施設である中工場にもお邪魔した。こちらは二階と六階の見学ルートを誰でも自由に見学できるようになっている。焼却処理工場とは思えないモデルルームのようなきれいなさと、見学通路が全面ガラス張りになっていてとても清掃工場とは思えないような建物だった。広島の新観光名所にもなりそうな施設だ。民間には中々真似できないが、イメージアップにはとてもいい施設だと思う。

(TKO)



エコリウムと名付けられたガラス張り
の見学通路



通り抜けると瀬戸
内海が広がる

倉敷市真備町復興視察

広島視察の後、来年の日資連全国大会開催地になっている岡山県倉敷にお邪魔し、中国地区担当の室山副会長の会社である(株)田中商会を訪問、夜は伊藤理事長を始めとする倉敷再生資源事業協同組合の皆様と会食をさせて頂きました。翌日は、昨年ボランティア活動させて頂いた真備町を訪問しました。橋を渡ると茶褐色に染まった町が広がっていたのを思い出しましたが、泥もきれいに洗い流され、家屋も解体されて更地になっていたり建替え中だったりと未だ復興真っ最中でした。井原鉄道の高架下や国道沿いに積まれていた瓦礫もすっかりきれいになっていました。『福興』という地元のお酒をお土産に買い、復興に少しでも貢献しました。頑張ろう！倉敷・真備！



2階部分まで浸水して閉鎖中のマービーふれあいセンターに設置された復興商店街にて

資源新報社前社長

故 太田原 秀義氏(行年八六歳)を偲んで

令和元年六月五日、資源リサイクル業界の巨星が静かに没しました。

太田原秀義氏は、昭和二七年創立の資源新報社において今日まで、内外の膨大なそして緻密な情報網を駆使して再生資源の動静を全国の業者・市民・行政に届けられました。

また常に業界の以往を論じ、進むべき進路を灯し続けて下さいました。

さらに、日資連はじめ各種再生資源組合の特別顧問や相談役として指導され、中立公平な仲裁役をも努めて頂くなど、業界にとってなくてはならない重鎮でありました。

氏の数々のご功績は、再生資源業界に携わる万人の知るところですが、

特に、国と業界を取り持つて、超党派の国会議員参加による「リサイクル推進議員連盟」の発足に奔走して頂き、東京都と業界の間では、業種や地域差を取りまとめ(公益社団法人)東京都リサイクル事業協会の設立に貢献するなど新たなシステムの実現にもご尽力頂きました。

私も、地元の資源組合から東資協・関資連・日資連の組合活動に携わる時期そして今日まで五〇年以上に亘つてご指導を頂き親交を賜りました。各省庁・都清掃局・政党・製紙製鉄メーカー・新聞社



などへの交渉や請願、そして関係する業界団体との折衝、自治体や市民とのごみ減量運動など、数多くの活動に対しご教示や同行をして頂きました。

氏との想い出としては、組合活動などでよく議論をさせて頂いたことでした。その都度貴重な情報や史実をもとに、納得のいくまで説教をして頂きました。強者と弱者そして中央と地方のバランスの大切さも論されました。誰からも得ることの出来ないあの時空がたまたまなくて、わざと反目して激論になることも屢々でした。

晩年お伺いした時、「私ほど社長に逆らった男はいなかったのでは」と五〇年ぶりに深謝しましたが、人懐こい笑顔満面にして許してもらい昔話に花が咲いたのが最後となりました。

近年、再生資源物の市況は、国内処理原則の国際環境が強まり、十数年前の超余剰化悪夢の日々に逆戻りしようとしています。今こそ氏の指導力求心力のもと、業界一丸となった市況対策が必要な時、突然相談することも叶わぬこととなりました。

ただただ残念で痛恨の極みであります。長い間お世話になりました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌

顧問 紺野 武郎

実際には一カ月半前から稼働を開始しているわけですが、開所式で改めてスタートラインに立ち、市民の皆様のリサイクルの発信拠点となるようなセンターの運営に努めてまいりたいと覚悟を新たにしました次第です。なお、新センターは、平日の日中であれば見学通路からいつでも見学が出来ますので、是非足をお運び下さい。(TKO)

日資連全国大会神奈川大会

去る六月二三日(日)、日本再生资源事業協同組合連合会の第四七回全国大会が、神奈川県資源回収商業協同組合の主管にて箱根のホテルおかで開催されました。私は、前日から宿泊し、当日の設営準備からお手伝いさせて頂きました。

大会式典では、昨年から導入された日資連旗を大河内青年部長が旗手として掲げながら入場、昨年の開催地である熊本県の西原理事長から、神奈川の佐藤理事長の手に手渡されました。

大会式典での飯田会長の挨拶では、冒頭で日資連の特別顧問であり、(株)資源新報社社長である太田原秀義氏の訃報が伝えられ、一瞬会場に動揺が走りましたが、業界

をけん引してきた太田原氏の遺志を受け継いで更に邁進していく覚悟が語られました。

式典の後、第二部記念講演が開催され、『協同組合法から観察する協同組合のメリット・デメリットについて』のテーマで弁護士池田賢史氏から講演がありました。

第三部懇親会では、全国大会では珍しく、温泉地での開催ということで、広いお座敷での宴会となりました。全国各地から参加されている組合員の皆様との交流に、アトラクションの太鼓の演奏と大いに盛り上がり、閉会となりました。(福田)



熊本の西原理事長から日資連旗を受け取った佐藤理事長

春のイベント報告

東多摩再資協では、今年の春も五月に小平市ごみゼロフリーマーケット、西東京市環境フェスティ

バル、六月には東大和市環境市民の集い、東久留米市環境フェスティバル、七月にはきよせの環境川まつりと各市のイベントに参加しました。

毎年恒例となっている分別ゲームの出版や、使わなくなったおもちゃ、ぬいぐるみ、育児用品、靴、カバン、食器類などの小物雑貨の無料回収、牛乳パックの無料回収(小平市ごみゼロフリーマーケットのみ)を行い、リユースとリサイクルの推進をしたり、市民の皆様からの分別相談をしました。東大和市や東久留米市ではスタンプラリーのイベントにも参加協力しました。

どのイベントも、おおむね天気にも恵まれ、とても良い雰囲気の中でイベントを行うことが出来ました。特に分別ゲームでは、子供からお年寄りまで様々な方に参加してもらい、ゲームを通じて分別に



●秋のリサイクルイベント案内●

今年も下記の日程、場所で各市のリサイクルイベントが開催されます。組合ブースでは、小物雑貨類(おもちゃ、ぬいぐるみ、育児用品、かばん、靴、食器類)などの無料回収、リサイクル分別ゲーム、古紙の分別相談窓口を行っております。是非遊びに来てください。なお、詳細は各市市報、ホームページをご覧ください。

- ①小平市環境フェスティバル
9月7日(土) 10時~14時 @小平市中央公園・下水道ふれあい館
- ②東村山市リサイクルフェア
10月20日(日) 10時~13時 @秋水園リサイクルセンター

ついでに再認識できたのではないかと
思います。(若林)



山田課長から日頃の安
全作業に対する感謝に
と、戸別収集の成功に
向けた激励の言葉を頂
きました。

西東京市は二〇〇七年より可燃ごみ・不燃ごみ・プラスチック容器包装類の戸別回収をスタートさせましたが、今回二〇一九年一〇月より資源物の戸別回収を実施することとなりました。回収を担当する当組合の回収員を対象に七月三十一日、西東京市のこもれびホールにて西東京市みどり環境部ごみ減量推進課の山田豊課長をお招きし、安全講習会を実施しました。当組合は東村山市、東久留米市の行政回収にてすでに戸別収集の経験があり、常に安全な作業を心がけていますが、改めて事故・トラブル等起こさぬよう市民の皆様への信頼に応えられる作業をこれから行なってまいります。(福田)

西東京市で一〇月から資源物の戸別収集がスタートします

戸別収集化前の資源回収員
安全講習会を開催

行事・行動

【令和元年五月】

- 六日：財務委員会
- 八日：東大和市環境市民の集い実行委員会

東資協理事會

- 九日：定例理事會
- 十七日：第二六回通常総会
- 十八日：日資連理事會

東資協通常総会

- 二二日：東村山市RF実行委員会
- 二五日：多摩リサイクル協組総会
- 二六日：小平市ごみゼロフリマ

西東京市環境フェスティバル
業務委員会

- 二七日：業務委員会
- 二八日：(公社)東リ協会定時総会

【六月】

- 二日：東大和市環境市民の集い
- 五日：BCP策定講習会
- 七日：東資協理事會
- 八日：日・関資連青年部総会
- 九日：東久留米市環境フェス
- 十一日：業務委員会

定例理事會

- 十四日～十七日 韓国RPM視察
- 十五日：東村山市集団回収団体意見交換会
- 十九日：BCP勉強会
- 二〇日：小平市廃棄物減量審議会
- 二三日：日資連全国大会
- 二六日：業務・集団回収委員会

【七月】

- 八日：東資協理事會
- 十日：古紙持ち去り情報交換会
- ：広報委員会
- ：定例理事會
- ：財務委員会

東資協理事會

- 十一日：小平RC責任者会議
- 十六日：業務・集団回収委員会
- 十七日：共同受注検査(小平RC)
- ：東村山市RF実行委員会
- 十八日：小平RC関連JV会議
- 二〇日：日資連理事會
- 二二日：ISO審査(二三日まで)
- ：西東京市廃棄物減量審
- 二四日：広島市RC視察
- 二七日：清瀬市環境川まつり
- ：組合員家族慰安会
- 三二日：東村山市業者連絡会議
- ：BCP策定講習会
- ：西東京市回収作業員安全講習会

共同受注検査(小平RC)

- 【八月】
- 六日：共同受注検査(西東京市)
- 八日：東資協理事會
- 九日：小平RC暑気払い
- 十二日：広報委員会
- ：定例理事會
- 十三日：小平RC責任者会議
- 十五日：小平RC関連JV会議
- 二一日：東村山市総合防災訓練打合せ会議
- 二二日：業務委員会

共同受注検査(西東京市)

- 今日号は韓国視察記事がボリューミーだったので、直言拝聴のスペースもお借りして掲載させて頂きました。ホント、今考えるとタイミングがずれていたらあの視察は行けなかったかもしれないと思います。その時見てきたことが、国際事情の変化でまた大幅に変わる可能性もあるかもしれません。六月時点で見たまま、感じたままを掲載しておりますことをご了承いただきたく存じます。

- ニュースを見てみると、韓国人が全員が日本バッシングをしているような気になりますし、韓国の指導者の反日感情をおおって愛国心や支持率を高めようとする姿勢や対話のテーブルに就こうとしない態度には私も不信感を覚えます。

- ですが、実際の現地の方は本当に親切で、日本が好きな方ももちろんいます。近くて美味しくて、シヨッピングも楽しい海外旅行先として、国際的なビジネスのパートナーとして、仲良くすれば相互に伸びていけそうな日韓関係がこれほどこじれているのが本当にもつたいなく思います。特に古紙も古布も鉄くずも韓国とは取引が多いので資源業界としては早期の関係改善を望みます。(TKO)

- 今日号は韓国視察記事がボリューミーだったので、直言拝聴のスペースもお借りして掲載させて頂きました。ホント、今考えるとタイミングがずれていたらあの視察は行けなかったかもしれないと思います。その時見てきたことが、国際事情の変化でまた大幅に変わる可能性もあるかもしれません。六月時点で見たまま、感じたままを掲載しておりますことをご了承いただきたく存じます。

- ニュースを見てみると、韓国人が全員が日本バッシングをしているような気になりますし、韓国の指導者の反日感情をおおって愛国心や支持率を高めようとする姿勢や対話のテーブルに就こうとしない態度には私も不信感を覚えます。

- ですが、実際の現地の方は本当に親切で、日本が好きな方ももちろんいます。近くて美味しくて、シヨッピングも楽しい海外旅行先として、国際的なビジネスのパートナーとして、仲良くすれば相互に伸びていけそうな日韓関係がこれほどこじれているのが本当にもつたいなく思います。特に古紙も古布も鉄くずも韓国とは取引が多いので資源業界としては早期の関係改善を望みます。(TKO)

- 今日号は韓国視察記事がボリューミーだったので、直言拝聴のスペースもお借りして掲載させて頂きました。ホント、今考えるとタイミングがずれていたらあの視察は行けなかったかもしれないと思います。その時見てきたことが、国際事情の変化でまた大幅に変わる可能性もあるかもしれません。六月時点で見たまま、感じたままを掲載しておりますことをご了承いただきたく存じます。

編集後記

今日号は韓国視察記事がボリューミーだったので、直言拝聴のスペースもお借りして掲載させて頂きました。ホント、今考えるとタイミングがずれていたらあの視察は行けなかったかもしれないと思います。その時見てきたことが、国際事情の変化でまた大幅に変わる可能性もあるかもしれません。六月時点で見たまま、感じたままを掲載しておりますことをご了承いただきたく存じます。

ニュースを見てみると、韓国人が全員が日本バッシングをしているような気になりますし、韓国の指導者の反日感情をおおって愛国心や支持率を高めようとする姿勢や対話のテーブルに就こうとしない態度には私も不信感を覚えます。ですが、実際の現地の方は本当に親切で、日本が好きな方ももちろんいます。近くて美味しくて、シヨッピングも楽しい海外旅行先として、国際的なビジネスのパートナーとして、仲良くすれば相互に伸びていけそうな日韓関係がこれほどこじれているのが本当にもつたいなく思います。特に古紙も古布も鉄くずも韓国とは取引が多いので資源業界としては早期の関係改善を望みます。(TKO)